

令和4年度 赤穂市立坂越小学校評価報告書

こころ豊かに 夢や目標をもって たくましく生き抜く児童の育成

1. 学校教育目標

2. 本年度の学校経営の重点目標

- 基礎基本の定着、対話を通じて学び合う授業による確かな学力を育成するとともにコロナ禍における学びの保障に向けた教育活動を構築する。
- 人権を大切に作る学校づくりを推進する。
- 心の教育を全教職員並びに外部機関とも連携しながら進める。
- 児童・保護者の思いに寄り添い、特別支援教育、児童支援を充実させる。
- 家庭と連携して基本的習慣の形成を行い、褒めて育てる教育を推進する。
- 新しい生活様式の中でも健康・体力の増進を図り、防災・防犯体制の整備も行う。
- 児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校づくりを行う。
- 学校運営協議会をはじめ、地域住民の参画と協働により学校運営を行う。
- 全教職員の共通理解のもと、組織的に教育活動を進める。
- 学校業務の工夫・改善を図り、子どもと向き合う時間を確保する。

3. 自己評価結果

(A～D) (A:達成した80%以上 B:ほぼ達成した 60～80% C:あまり達成できなかった40～60% D:達成できなかった40%以下)

観点(重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組内容)【別紙参照】 ○評価指標及び目標値(期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策
(1) 確かな学力と学びの保障	◇各学年の発達段階に応じた学習規律を定着させ、学習形態や、個に応じた指導方法を工夫し、基礎基本の定着に努めている。(複数指導・さこしの日の補充学習・朝学習の活用) ○児童が、読み書き計算などの基礎的な学習について8割以上の習得ができている。(児ア・保ア)→(評価テスト等)	職員アンケート 児童・保護者アンケート	B	・朝学習の時間に基礎の時間(復習タイム)をもうけ、学習の習熟を図る。 ・ICT端末を使う良さを整理し、活用するとともに、端末を用いた学習内容を適切に評価していくための研修を行う。
	◇児童一人一人が自分の考えをもち、友達との対話を通して学び合う中で、考えをさらに深められるような授業づくりに努めている。	職員・児童アンケート		
	◇個別最適な学びと協働的な学びを実現するツールとしてのICT活用を推進し、指導と評価の一体化を図り授業改善につなげている。	職員アンケート 職員研修		
	◇タブレット端末等のICT機器を、児童の学習内容理解や友達との考えの比較等に適切に役立て、次の授業改善につなげている。			
(2) 人権を大切に作る学校づくり	◇人権が尊重される仲間づくり、学び合いのある授業づくりに努めている。 ○児童が、間違いや失敗に対して否定的な反応をせず、自然に対話し、援助し合っている。	職員アンケート 児童アンケート	B	・スキルタイム(対話)の時間を活用し、児童の関わり合いの質を高める。 ・自己有用感を高めることのできる学級づくりや、人権に視点を置いた関わり合いのよさを、掲示物などで可視化していく。
	◇人権が尊重される仲間づくり、学び合いのある授業づくりに努めている。 ○児童が進んで挨拶をし、委員会活動やスマイル班活動等では学年を越えて友達を大切にしている。	職員・保護者アンケート		
	◇日々の教育活動やたんぼぼ学級の計画・実施等を通して様々な人権問題に関心をもてるように努めている。 ○日々の教育活動の中で、人権に視点を置いた促しや注意喚起、また児童が様々な人権問題に関心をもって、学ぶことができるよう、教職員の共通理解が図られている。	職員アンケート 職員研修		
(3) 心の教育の充実	◇児童の内面に根ざした道徳性を養うために道徳の教材や授業づくりの研究に努めている。 ○児童が進んで挨拶をし、委員会活動やスマイル班活動等では学年を越えて友達を大切にしている。	職員アンケート 児童アンケート	A	・引き続き、道徳科の授業の充実を図るとともに、生徒指導委員会による学校生活のルールづくりの取組において児童の自己指導能力の育成を図る。
	◇生活指導の中で、禁止ではなく励行をうながし、児童の自己指導能力を高めている。 ○生活指導委員会を中心とした取組の中で、児童の自己指導能力を育成し、児童による学校生活のルールづくりをすることで気持ち良く学校生活が過ごせている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート		
	◇いじめのない安心できる学校生活の推進に努めている。 ○いじめ・不登校の早期発見や早期対応のために、職員間で課題を共通し、必要に応じて外部機関とも連携し、すべての児童の心の居場所を保障している。	職員アンケート 児童・保護者アンケート		
(4) 特別支援教育の充実	◇個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、支援を要する児童や保護者への理解や寄り添いに努め、周囲への啓発と共通理解を図っている。 ○合理的配慮の観点を踏まえた指導と周囲の温かい協力により、支援を必要とする児童が設定した目標に向かって生き生きと学校生活を送れている。	職員アンケート 懇談及び面談の振り返り	B	・児童、保護者への啓発を積極的にうながし、人権教育の一環として取り組む。 ・支援の必要な児童に適切な支援ができるように、全職員で共通理解する場を増やし、関係機関との連携を強化する。
	◇すべての児童が集中して、学習に取り組むことのできる環境づくりや、視覚的に分かりやすい支援を心がけている。 ○日々の授業や生活の中で、掲示物の精選を行い、必要な情報の視覚支援などを取り入れて、授業のユニバーサルデザイン化を図っている。	職員アンケート 職員研修		
	◇「地域の本物」に出会い生き方を学ぶ体験、係や委員会、縦割り活動等で自分の役割を果たす体験等、キャリアを見据えた体験活動の充実を図っている。	職員アンケート		・行事ごとにキャリアパスポートを利用するだけでなく、1年や各学期を通した子ども達の目

総合的な学校園関係者評価

・次年度は、従来行事もさらに戻り、児童も教職員も多忙感があるのではと予想するので、地域や保護者との連携を十分図っていく必要がある。学校行事や地域学習に積極的に協力していきたい。
・学校が一生懸命指導しても、家庭の協力が得られないと指導の効果が表れないので家庭環境の充実を図ることが大切である。子は親の姿を見て育つと自分自身も実感しているので、各家庭において子ども達とのスキンシップを大切にし、基本的な生活習慣を家庭のしつけの中できちんと身に付けられるようにすると、将来に向かって児童が生き生きと生活することができるようになると思う。
・児童の登校をみかけることがあるが、自分から挨拶してくれ、交通ルールもよく守れている。高学年の児童が低学年を見守る光景もよく見かけるので、伝統を引き継いでほしい。
・校内で校長及び教職員が笑顔で迎えてくれる。次年度の児童アンケートでも引き続きたくさんの児童が「学校が楽しい」と回答できるように、保護者の立場からも応援していきたい。
・コロナ感染拡大防止策の緩和により、行事が今までに近い形で実施されることで、友達との交流が深まることを期待している。また、コロナ禍の影響で見られた児童の心のケアをしてもらうことで、楽しい学校生活を送れることを願っている。
・日頃、地域や保護者と連携を図り、心の教育の充実や挨拶スマイル取組が図られている。これは、将来の子ども達の成長に大きく左右すると思うので、今後ますます充実を図ってほしい。

学校関係者評価

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない×適切でない

自己評価は適切か	改善方法は適切か	課題と来年度具体的改善方法
○	◎	・友達と考えが違って、それを認めることも大切だと思った。違って当然、発表する場を確保する。 ・ICTの利用によるメリットも理解できるが、使用法や習熟度の差が出る為、そのケアに時間を要する可能性がある。
◎	○	・多くの児童が学校が楽しいと言っているのは、どの子も学校に居場所があるということである。今後も、一人ひとりが認められる環境づくりを継続してほしい。 ・対話ができることが素晴らしいと思う。今後も対話を取り入れた指導を継続してほしい。
◎	◎	・児童がみんな優しい心を持っているのは、道徳授業の充実の成果だと思うので、今後も継続して欲しい。 ・体験授業は子どもの成長には欠かせない大切なものであるため、これからは実施方法を工夫して行ってほしい。
○	◎	・どの児童も生き生きと楽しく学校生活を送れるように行き届いた支援や見守りを継続してほしい。
		・地域の本物体験を通して、子ども達が具体的な未来を描けるような学習活動が展開

(5) キャリア教育の充実	○人との出会いや、自分の役割を果たすことによって得た喜び等を、自分の目標や将来の夢の実現に生かすことができる。	保護者アンケート	B	標やその振り返りを随時促していく工夫を行う。	○	○	できるとよい。
	◇「地域の宝物」に出会い生き方を学ぶ体験、係や委員会、縦割り活動等で自分の役割を果たす体験等、キャリアを見据えた体験活動の充実を図っている。 ○各学期のはじめと終わりや行事の前後に目標と振り返りの場を設定し、キャリア形成を図っている。	職員アンケート 保護者アンケート					
(6) 家庭との連携	◇児童の学習や読書の習慣、「早寝・早起き・朝ごはん運動」や健康管理、挨拶の励行などの基本的な生活習慣の定着を目指し、家庭と連携して、教育活動を行っている。 ○保健や食育だより、学習や読書、挨拶習慣をつけるための情報発信、講演会への招待等により家庭の意識を高め、よりよい生活習慣の定着が図られている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート	B	・次年度、学級経営説明会を行い、保護者に学級経営方針をより明確に伝えられるようにする。年2回の個別懇談時や必要に応じて面談や連絡を取り合うことで、児童の様子がより伝わる形で家庭との連携を図る。	○	◎	・登下校の様子の把握は教師や保護者だけでは難しいので、地域住民の見守り活動でサポートしていく。 ・朝の挨拶は家庭で挨拶をする習慣がしっかりあれば、おのずとできると思うので、保護者にも協力を呼びかける。 ・参観日などの行事が増えてきたが、学校での日常の様子を知ることのできる情報はまだ少ないように感じる。負担にならない程度で学年通信等に写真で行事や日常の様子等の写真を載せてもらうなど、児童の近況を知ることのできる取組が図られると良い。
	◇連絡帳や通信、メールシステムなどを通じて、児童の課題も善行も共有し、家庭と連携して教育活動を行っている ○学校の様子や児童の様子を保護者に的確に伝えることで、家庭の協力を得て、児童がよりよい学校生活を送ることができる。	職員アンケート 児童・保護者アンケート					
(7) 健康と安全を守る取組の充実	◇毎月の生活目標をもとに、新しい生活様式を踏まえ、安全に留意しながら生活指導を行っている。 ○児童が毎月の生活目標を意識して、学校生活を送り、終わりの会や月末の振り返りの際に8割以上の達成率を実感することができる。	職員アンケート 保護者アンケート	A	・引き続き児童がめあてをもって体力づくりや生活目標の達成に取り組めるように、練習カードを用いた体力づくりの推進や各月の生活目標の設定と振り返りを丁寧に行う。 ・危機管理マニュアルを確認し、日々の安全確認を継続する。	◎	◎	・急な雨天時の判断は難しいと思うが、事前にメールで保護者に心づもりを予告してもらえるのは予定が組みやすく助かる。 ・さまざまな事例や体験を通して危険感受性の向上を図る。
	◇児童の体力向上のため、体育や学校行事、特別活動や学級の全員遊び等、工夫して教育活動を行っている。 ○児童が体力の向上を目指して、マラソンやなわとび、器械運動の練習を進んで行ったり、休み時間に元気いっぱい外で遊んだりしている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート					
	◇施設設備の整備や安全点検や危険箇所の営繕補強、学校から保護者への緊急時に向けた未然対応に努めている。 ○学校安全計画に基づいて、施設設備の整備や危険箇所の営繕補強がされていて、危機管理マニュアルの作成・周知、連絡体制の整備ができています。	職員アンケート 保護者アンケート					
	◇学校だよりや学校HP、参観日オープンスクール等を通じ地域への情報発信に努めている。 ○学校の教育活動が保護者や地域に広く紹介されている。	職員アンケート 保護者アンケート					
(8) 信頼される開かれた学校づくり	◇地域の自然、文化、歴史、人、もの、ことと関わる体験や学びを大切に、地と連携し、教育活動を行っている。 ○生活科や総合学習の中で、地域について知る学習や郷土のよさを生かした体験活動及びゲストティーチャーによる指導により、ふるさと意識の醸成が行われている。	職員アンケート	B	・コロナウイルス感染症拡大防止措置の緩和に伴い、オープンスクールや地域での活動を必要に応じて拡大、進化させ、坂越小の特色ある学校づくりを進めていく。 ・150周年の節目の年に学校の教育活動を広く知ってもらえるように、地域へ学校の取組を発信する。	◎	◎	・コロナ感染拡大防止に配慮しながら、学校行事が円滑に実施されて、開かれた学校運営がなされていた。 ・次年度は是非オープンスクールを実施して欲しい。 ・坂越のよさはもちろんのこと、赤穂市のよさを地域学習を多く取り入れて欲しい。
	◇学校運営協議会制度(コミュニティスクール)や地域の協力を得ながら学校運営が行われている。 ○生活科や総合学習の中で、地域について知る学習や郷土のよさを生かした体験活動及びゲストティーチャーによる指導により、ふるさと意識の醸成が行われている。	職員アンケート 職員研修					
	◇学校教育目標の具現化をめざし、必要な報告・連絡・相談を適切に行い他の職員と協働して組織的に教育活動を行っている。 ○職員集会や会議の場で、各状況を報告し合い、職員が指示事項を共通理解し、全教職員で全児童に関わる体制づくりがなされている。	職員アンケート 保護者アンケート					
	◇児童の学びに寄り添う授業研究や教職員の資質向上や専門性を高めるための研修を行っている。 ○学級公開週間や校内の研修の機会を利用して、系統性のある授業づくりや学習規律の定着に生かしている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート					
(9) 組織としての学校運営	◇校務の精選、定時退勤日の励行による勤務時間の適正化や教育課程の工夫などによって、児童に向き合える時間を確保するよう努めている。 ○定時退勤日の完全実施により、ワークライフバランスを心がけ心身のケアに努めている。	職員アンケート	C	・学期に1回、業務改善の会議を開き各職員の意見を出し合う。 ・学校だより、HP等でも定時退勤日を周知し協力していただく。 ・学校行事を例年通りの開催に近づけることができたので、次年度の行事の時期を設定する際にゆとりをもった立案をする。	○	○	・行事が増えるであろう次年度の業務量が心配なので、削減できるものは減らしていけるとよい。 ・多忙な中で、時間をどう確保するかが課題であるが、大切なことであるので今後もお願いしたい。 ・大変だと思うが、継続して子ども達と向き合ってもらいたい。 ・改善点が多いので、行事ごとなどに効率よく時短できるような作業案について話し合いが必要。